

録音ボランティア団体に聞きました

水沢区：録音ボランティアはなことばの会 江刺区：えさし声の広報アイメイト

議会広報編集委員会として、視覚障がいの方に、議会だよりの内容を伝える音声訳ボランティア団体を取材しました。5区それぞれにボランティア団体があります。今回はその中で、水沢区で活動している、はなことばの会、江刺区のアイメイトをお伺いしました。

はなことばの会は1991年4月に発足、会員は31名になります。議会だよりの広報に留まらず、新聞も録音していて、活動はお盆や年末年始を除いて、ほぼ毎日になります。

2012年4月から、録音媒体を、それまでのテープからデジタイズに換えました。デジタイズになることで、議会だよりの全ページが録音されるようになりました。前回38号の収録時間は、2時間19分20秒になります。デジタイズの特長として、検索がとても楽になることを挙げています。専用再生機器のプレストークは、国の補助などで、ほぼ無料で入手できるそうです。

アイメイトは7名で活動、江刺区にある江刺総合コミュニティーセンターの録音室で作業をしています。議会だよりの内容が90分のテープに納まるように、収録しています。中でも議案審議と一般質問は必ず入れるようにしているそうです。

一般質問では、質問と回答で読む人を替えています。音楽をバックに入れたり、議長の声を入れたり、より聴きやすいように工夫がされています。

これからは、車など色々な場所でも聴けるCD化を検討しています。

どちらの団体も、使命感と情熱にあふれ、意欲的に活動されています。お一人おひとり、始めたきっかけはまちまちです。何かボランティア活動をしたいと始めた方、身内に視覚障がいの方がいて、そのことがきっかけで始めたという方、表に出なくても支援ができることに喜びを感じている方もいらっしゃいます。

スタートは、皆それぞれの理由からですが、今では生活の一部になっているということでした。

皆さん一様に、家庭や仕事との両立に苦労はあるけれど、一番やりがいがあり、これからもずっと続けていきたいと話されています。

利用者との交流を通して、相手のことを知る中で、よりやる気を湧かせているそうです。

利用者の拡大を図るため、地元の新聞やケーブルテレビ、奥州FMなどを通じた広報活動もしています。各団体の交流会も行われていて、それぞれに今までの活動の歴史を大事にしながら、情報交換なども行っています。



水沢区録音ボランティアはなことばの会
(活動場所：奥州市社会福祉協議会)



えさし声の広報アイメイト
(活動場所：江刺総合コミュニティーセンター)